

東京商工会議所史及び関連文献案内（出版年順）

このリストは渋谷史料館企画展「商人の輿論をつくる！～渋谷栄一と東京商法会議所～」の関連情報として実業史研究情報センターが作成したものです。http://www.shibusawa.or.jp/museum/special/kikaku2014_02_bunken.pdf

「詳細」欄の青い矢印のアイコンをクリックすると、ウェブ・ブラウザが起動して「実業史研究情報センター・ブログ」の「社史紹介（速報版）」エントリーが表示されます。

◆東商が編集または発行のもの

『書名』 編者 出版者（ページ数）	出版年	解題	詳細
『東京商工会沿革始末』 東京商工会残務整理委員編 東京商工会（63, 19p）	1892	明治初期に東京府は商工業奨励のため業者団体の設立を目指し、1878年（明治11）東京商法会議所設立、会頭は渋谷栄一。1883年（明治16）農工商関係の事務を統合する政府の産業政策により東京商工会に改編。商工会は商業、工業、金融、運輸の景況調査を実施、また商工業発展のための種々の建議を行う。1890年（明治23）商業会議所条例が制定され翌年東京商業会議所が設立したことで、東京商工会は解散。翌1892年（明治25）には残務整理が終了し『東京商工会沿革始末』が刊行された。 本書は江戸時代から公益事業を担った町会所、東京當舖会議所、東京会議所の3機関と、その流れをくむ東京商法会議所について概略を記述した後に、東京商工会の設立起因から解散残務終了までの沿革をまとめている。附録に会員名簿や会計書類等あり。	
『東京商工会議所六十年史草稿』 東京商工会議所編 東京商工会議所（364, 11枚）	1938	1878年（明治11）に東京商法会議所として設立され、商工業者の団体として発展してきた東京商工会議所の60年史草稿。第1章は欧米の商業会議所の概要と日本での会議所発足の背景をまとめた「総論」。第2章から5章は前史として「東京会議所以前」「東京商法会議所」「東京商工会」「東京商業会議所」の各時代を記述。第6章で「東京商工会議所」の成立と1937年（昭和12）までの業績をまとめ、第7章で「現況」として議員と予算表の一覧を掲載。350枚を超える手書きの草稿をそのまま謄写印刷製本したもの。 〔概要を小冊子にまとめた『東京商工会議所六十年史概要』が同時期に刊行されたが、本草稿は未定稿のまま刊行に至らなかった	
「東京商工会議所六十年記念記事」（『商工経済』5巻4号） 東京商工会議所編 東洋出版社（p75-137）	1938	東京商工会議所編纂の月刊誌『商工経済』5巻4号に掲載された、東商創立60年記念記事。岩崎清七東商副会頭の回顧文、60年史の概要、インタビューの3記事からなる。7ページに渡る副会頭の記事は前史を含む東商60年の足跡を概観したもので、文末に「三月十八日午後六時二十五分放送」とある。次の60年史概要は「東京会議所」「東京商法会議所」「東京商工会」「東京商業会議所及東京商工会議所」の4章からなり、それぞれ成立の事情と業績をまとめている。最後は東商に関わった益田孝、星野錫、成瀬隆蔵、井上角五郎の各氏を記者が歴訪して取材した回顧談をまとめたもの。	
『東京商工会議所六十年史概要』（商工資料第70号） 東京商工会議所編 東京商工会議所（2, 2, 42p）	1938	『東京商工会議所六十年史草稿』（1938）の概要で、執筆は草稿と同じく作家の森田草平。「東京会議所」「東京商法会議所」「東京商工会」「東京商業会議所及東京商工会議所」の4章からなり、それぞれ成立の事情と業績をまとめている。本書は東京商工会議所の『商工資料』第70号として出版されたもの。当初は東京商工会議所編纂の月刊誌『商工経済』5巻4号に「東京商工会議所創立六十年記念記事」の一部として掲載され、後に抜刷が本書となった。	
『東京商工会議所八十年の回顧』 東京商工会議所（4, 158, 5p, 図版26枚）	1961	商工業者の団体として1878年（明治11）に設立された東京商法会議所は、東京商工会、東京商業会議所と変遷の後1928年（昭和3）東京商工会議所に改組された。1878年からの80周年の記念事業として新館建築と80年史編纂が計画され、新館は1958年（昭和33）に開館。80年史は編纂に必要な図書資料が新館建築の影響で十分に利用できず、概略のみ小冊子として本書を1961年（昭和36）の80年記念式典で配布し、その後も年史編纂は継続された。 本書は巻頭に新旧の建物写真と、歴代会頭および現役員・議員計140名の写真を掲載。7章からなる本文は第1に前史を置き、第2以降東京商業会議所発祥からの足跡をまとめている。	
『東京商工会議所八十五年史. 上・下』 東京商工会議所（2冊）	1966	1878年（明治11）に商工業者の団体として設立された東京商法会議所（東京商工会、東京商業会議所と変遷の後に東京商工会議所）の85年史。上巻は編纂趣旨等を記した序章と、戦前期をまとめた第1～5編からなる。第1編前史1は欧米諸国の商業会議所史、第2編前史2は日本における商業発達史および江戸時代の町会所から明治期の東京会議所に至る系譜を記述。第3～5編は東京商法会議所発足から戦前期の東商躍進時代までの65年間を詳述している。下巻は戦中戦後の約20年間を記述した第6～10編と、「回顧と展望」と題した終章からなる。第6編は戦時体制下に東京都商工経済会となった時代、第7編は戦後の社団法人時代、第8～9編は特殊法人として再出発した東京商工会議所の発展時代、第10編は商業会議所の連合組織をまとめている。当初「創立八〇周年記念史」として編纂が計画されたが、会議所建物の新築移転の時期に重なり編纂に不可欠な図書資料の利用が制限されたため、85年史と改題して編纂が進められた。下巻巻末に紀元前から1963年（昭和38）までの年表付。上下巻計3,000ページを超える大作。	
『絵でみる100年と東京商工会議所のあゆみ』 東京商工会議所（47p, 図版2枚）	1978	1978年（昭和53）に100周年を迎えた東京商工会議所の、記念式典資料として刊行された小冊子。明治初期から100年間の日本の政治経済社会と東商の歩みを年表として各ページ上覧に置き、下欄には1867年（慶応3）の幕府遣欧使節徳川昭武一行（渋谷栄一も随行）の写真から、1977年の永野重雄会頭チリ訪問写真まで、各時代のトピック写真を数多く掲載。東商の足跡と理念を簡潔にまとめ、資料的価値のある冊子となっている。 〔記念式典は1978年3月11日に明治神宮会館ホールで1,500名が参列して挙行された。本小冊子は3万部発行〕	

『書名』 編者 出版者 (ページ数)	出版年	解題	詳細
『東京商工会議所百年史』東京商工会議所百年史編纂委員会編 東京商工会議所 (611p)	1979	1878年(明治11)に東京商法会議所として誕生した東京商工会議所の100年史。85年史以降の15年間に重点をおきつつ、創立以来の歩みも要約して記述。4部からなる沿革編と、定款、役員、議員、組織、支部などのデータがまとめられている附編からなる。沿革編第1部は商工業の発達史から明治期の東京商法会議所誕生と東京商工会への改編まで。第2部は1890年(明治23)公布の商業会議所条例に始まる東京商業会議所のあゆみ。第3部は1928年(昭和3)施行の商工会議所法による東京商工会議所の発足から、戦争を経て1964年(昭和39)の創立80周年記念式典のころまで。第4部は国際化と高度経済成長期を経て100周年を迎えるまでの東商の足跡。沿革編の最後には、東商の将来像について当時の会頭らが語った座談会を収載している。	
『実業人の舞台』 東京商工会議所 (345p, 図版4枚)	1980	1878年(明治11)に東京商法会議所として誕生した東京商工会議所の、発足当時のエピソードをまとめたもの。「発祥」「グラント将軍」「不平等条約」「横浜生糸貿易紛争」「文物創造」「日米摩擦の回避」「渡米実業団」「明治神宮奉建運動」「渋沢栄一」の各テーマのもとに、会議所を舞台にした明治の実業人たちの活躍の様子を描く。そして最後の「生々流転」では、先人の礎の上に築いた東商の今日の姿を簡潔にまとめている。本書は東京商工会議所100周年を機に、機関誌『東商新聞』に「ルーツ東商100周年」と題して1978年1月から翌年12月まで53回に渡り連載した記事に加筆訂正し、単行本として出版したものである。編纂は東商広報部が中心となっており、資料蒐集と執筆は広報部編集室長本間司が当たった。	
『先人の志を今へ：東京商工会議所創立130周年記念』 東京商工会議所 (59p)	2008	2008年(平成20)に創立130周年を迎えた東京商工会議所の記念誌で、4章からなる。第1章「先人たちの軌跡」は、初代会頭渋沢栄一を始め8人の足跡を記した「賢人たち」、東商の事業を振り返った「刻んだ偉業」、調査活動や建議などをまとめた「政策起源」の3節で歴史を綴る。第2章「行動する東商」では、現在の東商の活動を変革力、経営力、地域力という視点から描く。第3章「組織を知る」は支部も含めた東商の組織の解説、第4章「これからの東商」は次の時代へ向かう活動宣言。参考文献には図書雑誌の他、12団体のウェブサイトも挙げられている。	
『渋沢栄一：日本を創った実業人』東京商工会議所編 講談社 (316p, 図版1枚) (講談社+α文庫)	2008	1878年(明治11)に東京商法会議所として誕生した東京商工会議所は、渋沢栄一を始めとした当時の実業人達の、新たな時代を築く気概に満ちた組織であった。東商は1980年(昭和55)に創立100周年を記念して、発足当時のエピソードをまとめた『実業人の舞台』を刊行。これをベースに再編集し、創立130周年を機に文庫本で出版したのが本書である。「発祥」「グラント将軍」「不平等条約」「横浜生糸貿易紛争」「文物創造」「日米摩擦の回避」「渡米実業団」「明治神宮奉建運動」「渋沢栄一」の各テーマは原著と同様で、いくつかの見出しをわかりやすく改め、本文の固有名などにルビを追加。原著の「生々流転」の章は割愛され、「あとがきに代えて」の中で現代における東商の役割を総括している。	

◆東商以外の刊行物

『東京商工奨励館概要』東京商工奨励館編 東京商工奨励館 (21p, 図版9枚)	1921	第一次大戦を機に国内工業の発展が図られ、製品改良や販路拡張等の研究機関設立の機運が高まる。また実業家らは粗製乱造防止の一端として実用的機械工具陳列館の建設を東京府に建議。東京府は商工業育成のため東京商業会議所、東京実業組合联合会と協力の上、1917年(大正6)渋沢栄一を会長に東京商工奨励館期成会を組織し、寄付を募集。この拠金で1921年(大正10)商業会議所ビルの近くに、地上3階地下1階総面積3,000坪近い東京商工奨励館が完成。工業試験部、商品陳列部、調査部の3部門と庶務部で業務を始める。 『東京商工奨励館概要』は「歴史及び業務」「工事概要」「使用規則及使用細則」の内容で、外観や内部の写真、各階平面図も掲載。業務開始にあたって各方面へ案内のため作成されたものと推測される。 [1970年東京都電気研究所と統合し東京都立工業技術センター(現・地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター)となる]	
『商工業100：商工会議所100周年記念』日本商工会議所 日本商工会議所 (184p)	1978	1878年(明治11)に商工会議所の前身である商法会議所が、東京、大阪、神戸に発足。その100周年を記念した日本商工会議所主催の2つの展覧会が、1978年(昭和53)10月に東京都内2箇所の会場で同時開催された。本書はその図録で、「商工会議所と日本経済100年」と題する論考、図版で綴った「明治・大正・昭和一時代と商品」、「日本の経営者100人」をめぐる対談、経営者76人の言葉を集めた「日本の経営道」、記念展覧会の内容紹介、そして論考「21世紀への展望」からなる。本文に挟み込まれた86ページに渡る各社の広告は、それ自体で時代の記録となっている。 [全国の商業会議所の連合体として1892年(明治25)に発足した商業会議所联合会は、1928年(昭和3)商工会議所法施行により日本商工会議所となり、変遷の後1953年(昭和28)施行の法律により、翌年特別認可法人に改編]	
『渋沢栄一、アメリカへ：100年前の民間経済外交：渡米実業団100周年記念』渋沢栄一記念財団 渋沢史料館編 渋沢栄一記念財団 渋沢史料館 (76p)	2009	渋沢栄一を団長として東京や大阪など大都市の商業会議所等で活躍する実業家ら約50人の団員で組織された渡米実業団は、1909年(明治42)に米国を訪れた。本書は訪問から100周年を記念して渋沢史料館で開催された展示会の図録。渡米実業団についての解説文と行程地図を巻頭に置き、続いて多くの写真入り本文4章、そして資料・論考からなる。第1章は渡米実業団結成のいきさつから出発まで、第2章は米国到着から各地の視察内容、第3章は米国各地での歓迎と会見の詳細、第4章は実業団の記録と団員の観た米国についてのまとめ。資料・論考には団員の経歴と写真、出発から帰国までの行程表、そして5点の関係史料と3本の論考を掲載。渡米実業団の足跡を多方面から紹介する内容になっている。 なお、渋沢栄一記念財団は2009年11月に「平成の渡米実業団」事業を実施しており、それに向けて同内容の英文版図録も刊行した。	